

山田花作 （詩人） 歌人、新聞記者。明治九年八月八日新潟縣佐渡相川町生れ、昭和八年七月二十日歿（一八六一—一九三三）。本名穀城。筆名山花、砂土老客、茶狂、雌黄生等。明治二十九年『新潟新聞』入社。また『鐵幹』編輯野寛著『東山南北』（明治二十九年七月十日明治書院）の一讀共鳴、新派を唱へて論説と共に歌作を紙上に掲げ始めた。佐佐木信綱來港の折、竹松會入會の勧誘を受けると應ぜず、うち次第に信綱一派の歌風を反撥、郷土の舊派原宏平、日野資徳と論難するほど、徹底新派を貫いた。二十一年及び會を組織して新體詩を作る。二十四年『主筆無編輯荷長』となり、翌年雜誌『若菜井』を創刊。次いで、歌集『野調』（明治二十六年三月一日新潟・詩友會）を小金花作の名で刊行。大正九年市島春城の要請で上京、郷土の先輩前島密の遺稿集『鴻爪浪』五年（一八八〇）前年より紙上に連載してゐた『歌會波瀾世』を出版。歿後、與謝野蘭子序、北原白秋口繪（若菜井）を添へた『山田花作歌集』（昭和十四年七月二十日新潟・山田文一編輯、新潟新聞社）が出版された。巻紙、村馬御風年（注）の注（七）や（八）年譜と共につ載。



山田花作

